

# ほっかいどう

広報紙

その先の、道へ。北海道  
年5回発行(5・7・9・11・2月の下旬)



道産品が  
当たる!  
裏表紙をチェック!

2017年  
3月号  
平成29年2月発行  
通巻219号

**【特集】みんなで進む一歩に、北海道150年**

未来へつなぐ、みんなでつなぐ。  
2018年、北海道は命名150年を迎えます。

一人一人が主役の年、記念の年へ。みんなで北海道150年を盛り上げましょう。



その先の、道へ。北海道  
Hokkaido. Expanding Horizons.

**北海道の誇るべき価値を、次の世代へ。**

2018(平成30)年、北海道は命名されてから150年を迎えます。  
この節目の年に、いまを生きる私たちが北海道の姿を見つめ直し、  
先人から受け継いだ財産を次の世代に継承していくことが大切です。  
北海道の誇るべき価値を道民の皆さまと共有し、  
これからの北海道を担う子どもたちが、  
ふるさと北海道を思う気持ちを育てられるよう、  
未来志向の取り組みを一緒に進めていきましょう。



北海道知事 志摩 幸子

**北海道の未来を展望する節目の年**

縄文文化やアイヌ文化をはじめとする本道独自の歴史や文化、  
国内外に誇る豊かな自然環境は、北海道に住む私たちにとって  
精神的豊かさの源です。

道では、「北海道」と命名されてから150年目となる2018年を節  
目ととらえ、この年に行う記念事業「北海道150年事業」の検討・準  
備を進めています。

この記念事業では、これまで積み重ねてきた歴史や先人の偉業  
を振り返り、感謝し、道民の皆さんと一体となって節目の年として  
祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を  
目指し、次の50年に向けた北海道づくりにつなげていきます。

また、道民の皆さん一人一人が、新しい北海道を自分たちの力で  
創っていくという気概を持ち、北海道の新しい価値、誇るべき価値  
を共有し、国内外に発信することで、文化や経済などさまざまな交  
流を広げていきます。

**道民参加型の記念事業**

北海道150年事業は、本道の歴史や文化、地域の魅力を道民の皆さんとともに再認識  
し、国内外に発信するため、幅広い分野からのご意見を取り入れながら、北海道みらい事  
業をはじめとする道民参加型の記念事業として進めていきます。

記念事業は、次の3つをテーマとしています。

- 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す
- 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ
- “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる

中面では、これから皆さんとともに進めていく取り組みを  
紹介します。

道では、「北海道150年ロゴマーク」を  
公募により決定しました。



**北海道クイズ**

北海道新幹線開業PR  
キャラクターの名前は?  
どこでも〇キちゃん



答えは中面下に▶





### 知っておこう、北海道命名の歴史

#### ●北海道命名について

本道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、1869(明治2年)7月17日に、松浦武四郎が「北加伊道」を含む6つの名前を候補とする意見書を明治政府へ提案し、その後8月15日に、太政官布告によって「北海道」と命名されました。

2018年、北海道はその命名から150年目の節目を迎えます。武四郎が残した『天塩日誌』では、現在の首葺子府村のあたりで、アイヌの古老から「カイ」という言葉には、「この地で生まれたもの」という意味がある」と教えられたとの記述があり、「北加伊道」の「加伊」にはこの意味が込められているといわれています。

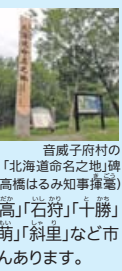
#### ●「北海道」の名づけ親、松浦武四郎

松浦武四郎は、現在の三重県松阪市の出身で、生涯にわたって全国を歩き続け、探検家、作家、地理学者、出版者、古物収集家などとして幅広い分野で活躍しました。

26歳のときに、ロシア南下に危機を感じて蝦夷地調査を決意。28歳から41歳にかけて全6回にわたり蝦夷地を調査し、その歩みは樺太や国後・択捉島までに及びました。また、調査の際には、アイヌの人たちに案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するため、多くの記録を残しました。

#### いまに受け継がれる武四郎の功績

『天塩日誌』に記された音威子府村蔵島地区には「北海道命名之地」という碑が建てられています。武四郎は、道内各地を訪れており、記念碑は、道内に50以上もあります。また、武四郎は、アイヌ語の地名などを参考にしながら、道内の多くの地名を名づけたことでも知られてい



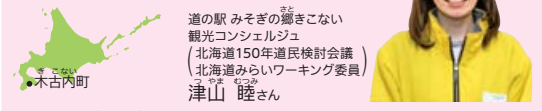
- 1818 松浦時春(桂介)の四男として誕生
1833(16歳) 手紙を残して家を出る(江戸で見つかり1カ月半で連れ戻される)
1834(17歳) 全国を巡る旅に出る
1843(26歳) 蝦夷地調査を決定
1844(27歳) 郷里に戻って亡き両親の墓に参る
1845(28歳) 第1回蝦夷地調査
1846(29歳) 第2回蝦夷地調査
1849(32歳) 第3回蝦夷地調査
1855(38歳) 江戸幕府から蝦夷地御用掛入の命を受ける
1856(39歳) 第4回蝦夷地調査
1857(40歳) 第5回蝦夷地調査
1858(41歳) 第6回蝦夷地調査
1868(51歳) 明治政府から箱館府判事命じられる
1869(52歳) 6月、明治政府から蝦夷地御用掛命じられる
7月17日、明治政府へ蝦夷地のほかにも、国名、郡名(地域を分ける名称)の選定にかかわる。8月、開拓判官を拝命。8月15日、太政官布告によって「北海道」と命名。従五位も返上。
1870(53歳) 開拓判官を辞職。従五位に叙される
1888(71歳) 従五位に叙される
2月10日、東京神田五軒町の自宅にて死去
※年齢は数え年

### 未来へつなぐ、みんなでつなぐ150年へ

#### ●みんなで進めよう!「北海道みらい事業」

基本方針では、北海道150年事業を、大きく「北海道みらい事業」と「記念セレモニー」に分類しています。このうち、道民の皆さんや企業、団体、市町村などさまざまな主体が実施する「北海道みらい事業」は、北海道150年事業の主役となるものです。

#### 北海道150年を盛り上げることは、ふるさとに誇りを持つこと。



北海道新幹線開業に先がけて平成28年1月にオープンした道の駅「みそぎの郷まごない」では、これまでの紙袋のデザインをアレンジして、北海道150年記念のレジ袋・紙袋とTシャツを作成。「2018年 Hokkaido 150年」というメッセージとともに木古内弁を入れたデザインは、お客さまにも大変好評です。

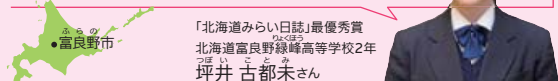
こうした企画を自主的に実施したのは、北海道150年を一緒に盛り上げたいと思ったから。木古内町を含む周辺9町が連携して北海道新幹線開業を進めてきたことにより、私は、ふるさとに誇りを持つこと、自ら元気を発信していくことの大切さを学びました。

北海道150年事業に向けた取り組みは始まったばかりですが、木古内町ではこのレジ袋の取り組みなどを通して関心が広がっています。この機会に、道民自身がさまざまな角度で本道の価値を見つめ直すことにより、北海道に住んでいることの誇りを実感できると思います。

#### ●明日の北海道をつくろう!「北海道みらい日誌」

道民検討会議では、基本方針を検討するにあたり、道民、特に北海道の未来を担う若い世代の意見を取り入れるため、15歳から25歳までの道内在住者を対象に、北海道の未来についての作文「北海道みらい日誌」を募集しました。「生活・安心」「経済・産業」「人・地域」の3つのテーマに計390人から応募があり、高校生3人がそれぞれのテーマの最優秀賞を受賞しました。

#### 農業のすばらしさをもっと多くの人に伝えたい。



「経済・産業」のテーマで、『将来の夢～私、農家になりたい～』という作文を書きました。私の家は中富良野町で農家を営んでおり、両親の働く姿を小さいころから見てきたことから、将来は農業の道に進みたいと思っています。高校で専門的に学んでから、農業の奥深さや新たな可能性にも気づくようになりました。農業はまだまだ男性が働いているというイメージが強いですが、将来は女性農業者の一人として「農業ってこんなにすばらしいんだよ」と多くの人に知ってもらいたいと思います。

北海道は本州などと比べて歴史が浅いといわれますが、私は逆に良いことだと思っています。それが北海道らしさでもあり、新しいものを受け入れる地域性につながっていると思うからです。すばらしい賞をいただき、将来、この大好きな北海道で農家になろうという気持ちがいっしょに強くなりました。

お知らせ
北海道
お問い合わせは
マークの窓口、またはホームページへ。

#### 除雪・雪下ろしの事故や融雪・なだれに注意を

- 雪解け時期の事故を防ぐため、次のことを心がけてください。
【除雪・雪下ろし】
●雪下ろしは1人ではなく複数で行い、滑りにくい靴や命綱を着用
●除雪機を使用するときは巻き込まれにくい服装で。機械トラブルが起きた際はエンジンを停止
【融雪・なだれ】
●気温の上昇や雨によって雪解けが進むと、なだれや土砂災害が発生しやすいので注意
●被害を未然に防ぐために、急な気温の変化や斜面の状況に注意し、危険な場所に近づかないこと



#### 漁港での遊泳禁止

漁業者と遊泳者とのトラブル防止のため、条例により、道内の全漁港(分区、分港も含む)の指定区域で、遊泳や潜水、入水し釣りをすることが禁止になります。違反すると、5万円以下の罰金に処されることがあります。※4月1日から施行
漁港内での遊泳は事故を招く恐れのある危険な行為です。絶対にやめましょう。
▶道庁漁港漁村課 ☎(011)204-5475

#### 警察署の統合について

警察署の機能強化のため、次の署を統合します。
統合時期 統合対象
平成29年4月1日 ●夕張署
→ 栗山署に統合
●三笠署
→ 岩見沢署に統合
●沼田署
→ 深川署に統合
3~4年先、またはそれ以降の時期 ●砂川署
→ 滝川署に統合
●美深署
→ 名寄署に統合
統合される警察署は「警察庁舎」として引き続き運用し、警察相談や交通の窓口を設置するほか、24時間常駐の警察官を配置し、事件事故に対応します。交番・駐在所は、現状の配置・体制を維持します。詳しくは北海道警察ホームページをご覧ください。
北海道警察 統合
▶道警本部治安総合政策室 ☎(011)251-0112

#### 「きた住まいる」のご利用を

- 「きた住まいる」とは、道が定めたルールを守り、安心で良質な家づくりを行う住宅事業者を登録・公開する制度で、次のメリットがあります。
●①省エネ・耐久・耐震といった基本性能を確保②専門技術者が設計・施工③設計や施工などの記録を保管、という3つのルールを守って家づくりを行います。
●住宅性能を「見える化」したシートを作成。建てた人が自分の家の性能を確認でき、これから建てる人の参考にもなります。
●設計や施工など住宅履歴情報をリフォームや住み替えの際に活用できます。
きた住まいる
▶道庁建築指導課 ☎(011)204-5577

#### 女性の健康サポートセンター

道立保健所の「女性の健康サポートセンター」では、思春期の体や心の悩みをはじめ、妊娠・出産、更年期障害など、女性のライフサイクルに応じた相談を受け付けています。相談は無料です。面接(予約制)や電話で保健師が対応します。お近くの道立保健所までお問い合わせください。
また、不妊専門相談センター(旭川医科大学病院内)では、不妊症や不育症に関する専門的な相談に応じています。ご予約は下記の予約専用ダイヤルにお電話ください。
▶不妊専門相談センター(予約専用) ☎(0166)68-2568(月~金、10~16時)
▶道庁子ども子育て支援課 ☎(011)204-5236

地域ニュース
オホーツク総合振興局
高校生・大学生がオホーツクスイーツを開発
オホーツク総合振興局では、管内5つの高校の生徒と東京農業大学の学生が、地元の食材を使ったスイーツを考え、一貫して行うプロジェクトを実施しています。生徒らはスイーツの特別授業を受けた後、菓子店にアイデアを提案。地元産の菊芋を使ったケーキやじゃがいも、かぼちゃの焼菓子など、バラエティーに富んだ20種類が完成しました。これらは東京農業大学のイベントでテスト販売を行った後、管内の道の駅をはじめ空港に総合振興局が設けたオホーツクスイーツコーナーや、札幌市で開催したオホーツクフェアで販売。評判がとて良く、新たなオホーツクスイーツとして期待されています。
▶農務課 ☎(0152)41-0766



#### 後志総合振興局 世界にはばたくづくりにグローバルサポーターが活躍中

外国人居住者の割合が高いニセコエリアをはじめ、国際性豊かな後志地域では、この特性を生かし、国際感覚や語学力を備えた人材の育成に取り組んでいます。
昨年10月から、管内で活躍する外国人や国際経験豊かな日本人を学校や地域のイベントなどに派遣し、交流を深めてもらおうと、「ShiriBeshiグローバルサポーター派遣制度」を始めました。サポーターと子どもたちが一緒に料理を作ったり、英語による絵本の読み聞かせをしたりするなど、楽しみながら外国語に触れられると地域の皆さんに好評です。今後サポーターとの交流を通して、子どもたちの国際的な視野を育てる機会をつくっていきます。
▶地域政策課 ☎(0136)23-1419

道議会から
定例会の概要などをお伝えします。
平成28年第4回定例会(11/29~12/15)
第4回定例会の一般質問(13人)では知事の政治姿勢や道政上の重要な諸課題について活発な議論が交わされ、知事から提案された予算案3件、条例案19件、その他の案件4件を原案可決、人事案件1件が同意議決、継続審査中の平成27年度各会計決算が認定され、議員及び委員会から提出された決議案1件、意見案4件が原案可決されました。
なお、予算特別委員会からは、付託議案の審査経過を踏まえ、民泊の導入に向け万全な対策を講じるための取り組み、道立病院が周辺公立病院などとの連携・協力を進める取り組み、子育て世帯の経済的負担の軽減、鉄道を含む本道の交通ネットワークの維持確保に向けた取り組み、道内空港の民間委託に関し国に対する提案の実現に向けた取り組みについて意見が付けられました。
▶平成28年度一般会計補正予算(第6号)
●総額 160億800万円
●歳出の主なもの
・台風災害などにより被災した土木、治山施設などの早期復旧を図るための経費
・台風災害などにより被災した農業施設・水産施設の復旧を支援するための経費
・宿泊キャンセルなどの影響を受けた道内観光地への誘客を図るための経費
・社会福祉法人等が行う施設整備や防犯対策に要する経費
・保育士養成施設在学者に対する修学

資金の貸付けなどを行うための経費
・地方創生推進に資する施設整備等を行うための経費
・都市部の若者などが働きながら田舎暮らしを学ぶモデル事業のための経費
・北海道未来人材応援基金への積み立て
・公共事業の効率的な執行のため、道単独事業を前倒して実施するための経費
・人事委員会勧告等を踏まえ、道職員等の給与に所要の措置を講ずる経費
▶可決された決議案
●特別委員会の定数に関する決議
▶可決された意見案
●地方一般財源総額の確保等の緊急的な対応を求める意見書
●私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書
●2次医療圏の設定に関する意見書
●精神障がい者に対する公共交通機関の運賃割引の適用を求める意見書
~ホームページをご覧ください~
道議会ホームページでは、議員一覧、議会の日程、議会中継、本会議の審議概要、傍聴・見学や請願・陳情提出のご案内、議会時報など、さまざまな情報をパソコンやスマートフォンでご覧いただけます。
なお、質問などの詳細は、市町村役場等に配布している冊子「北海道議会時報」でもご覧いただけます。
北海道議会
検索
~次回定例会のお知らせ~
平成29年第1回定例会は、2月下旬に開会の予定です。最新情報は、ホームページや北海道議会ツイッターなどでご確認ください。
▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691



# 北海道 ひと・人・くふう

アイデアも道産!

北海道を豊かにする、地域の皆さんの「ひと工夫」を紹介します。

ブック編

街中に工夫!  
カフェに生花店、写真館も  
個性豊かな図書館に。  
恵庭まちじゅう図書館【恵庭市】

作家に工夫!  
子どもからお年寄りまで、  
町民が作家になって町おこし。  
らんこし作家デビュー・プロジェクト【蘭越町】



カフェの図書コーナーと目印のフラッグ

赤ちゃんに絵本を贈るブックスタート事業を北海道で初めて行った恵庭市。誰もが気軽に本と触れ合えるようにと、飲食店や病院、写真館などに本を並べる「恵庭まちじゅう図書館」を2013年からスタートし、現在は49の施設や店が参加しています。約300冊もの本があるカフェ、図書館にもない雑誌のバックナンバーを揃えるそば店や不動産会社、おすすめの本を語り合うブックトークランチや読み聞かせを行う店など、いろいろなタイプの図書館が誕生しています。

「恵庭市人とまちを育む読書条例」が制定されたことをきっかけに、長野県小布施町の取り組みを参考に始めた活動です。現在は、九州や東北など全国に広まっています。

利用者からは「読書が好きになった」「本を通じて仲間が増えた」などの声が寄せられ、参加施設が主体となったイベントを開催するようにもなりました。「読書のまち恵庭」が定着していくのを感じています。

▶お問い合わせ 恵庭市立図書館 ☎(0123)37-2181

本を通して人と人の交流が深まりました。



恵庭市立図書館 読書推進担当 森本 未来さん

「蘭越町を“作家になれる町”として有名にしたい」という思いから4人の有志が協力し、2013年から始めたプロジェクトです。本づくりを町民に呼びかけ、13歳から85歳までが参加。目標の24冊(当時の住民世帯数の1%)を超える38冊の作品が完成し、専用サイトで電子書籍を無料公開しました。その後も新作が続々と誕生し、現在68冊を公開中。全国的にも珍しい取り組みとして注目されています。



完成した本の一部(左)町の施設の図書コーナー「花一会」でも閲覧可能(上)

「執筆してみたい」「わが町のすばらしさを広めたい」と参加して下さる方が想像以上に多かったですね。

きのこの絵本や家族の物語、ワイナリーができるまで、蘭越の歴史など、さまざまな本が生まれました。当初は住民や町の出身者限定でしたが、他の地域からの問い合わせも多く、町外の方も参加できるようにしました。

●作品閲覧は、下記のサイトまたは「花一会」にて  
<http://p.booklog.jp/users/rankoshi>

▶お問い合わせ 蘭越町コミュニティプラザ 花一会 ☎(0136)57-6085

本をつくりたい人がこれほどいたことに驚きました。



らんこし作家デビュー・プロジェクト代表 高橋 伸次さん

## キラキラ! どんさん

道内各地で、未来に向かってきらきら輝くそんな子どもたちを応援します。  
園児から高校生まで、ヒグマとの付き合い方を学んでいます。

町内すべての幼稚園・学校で「ヒグマ学習」 羅臼町

知床が世界自然遺産に登録され、環境教育に力を入れてきた羅臼町。町内すべての幼稚園から高校までがユネスコスクール\*に加盟し、一貫した「ヒグマ学習」を行っています。



本物の毛皮の感触やにおいを知る幼稚園児

授業では、ヒグマのエサや毛皮、骨、ふんなどの実物を教材に生態や行動範囲を学び、人里に近付けないためのゴミ拾いや遭遇したときの対処法、野生動物との共生など、教育課程ごとに知識や経験を広げています。教育委員会自然環境教育担当の金澤裕司さんは「人間とヒグマの距離が近い環境だからこそ子どものうちからの教育、ヒグマと共生できる人材の育成が大切」と、この学習に力を入れています。\*地球規模の環境問題などに子どもや若者が対処できるよう新しい教育内容や手法の開発・発展を目指して活動する学校のこと。現在182の国や地域で1万校以上が加盟。

▶お問い合わせ 羅臼町教育委員会 ☎(0153)87-2129

## 当たる! 北のおいしさ!

(株)もりもとの「太陽いっぱいイエロートマトゼリー」(8個入り)をプレゼント! 仁木町産の黄色いミニトマト、イエローミミを使用した濃厚な甘さと爽やかな味わいです。



●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

- 3月号の中で興味を持ったのは、どの記事ですか
- ①特集(みんなで進む一歩に、北海道150年)
  - ②お知らせ北海道 ③地域ニュース ④道議会から
  - ⑤ひと・人・くふう ⑥キラキラ! どんさん

抽選で30名様

●応募方法: アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募期限: 3月24日(金)必着 応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先: ハガキ 〒060-8588(住所不要) 北海道広報広聴課「当たる! 北のおいしさ!」係

携帯サイト パソコン 広報紙ほっかいどう 検索

●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。\*12月号のプレゼントには、5,013件の応募をいただきました。

北海道の人口	総人口	男	女
平成28年12月末	5,342,966人	2,525,352人	2,817,614人
前年同月比	33,488減	16,899減	16,589減

※人口は年4回公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

次号のお知らせ 次号は5月に配布予定です。



この広報紙は環境に優しい植物性インキと古紙配合率70%再生紙を使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

広告